

# モナコ公国における サステナブル・ツーリズムに関する 白書



visit  
**MONACO**  
SUSTAINABLE TOURISM



# 目次

---

## はじめの挨拶

モナコ公国アルベール2世大公	p. 5
世界観光機関(UNWTO)事務局長	p. 6

## 代表の挨拶

モナコ政府観光会議局局長	p. 7
--------------	------

## 1・モナコ公国におけるサステナブル・ツーリズムに関する白書

p. 8 - 10

## 2・モナコ公国におけるサステナブル・ツーリズムに関する白書の編集方法

p. 11 - 12

## 3・現在のモナコにおけるサステナブル・ツーリズム

3.1・高品質な観光商品	p. 13
3.2・恵まれた地域環境	p. 14 - 15
3.3・観光客と住民がともに支援する取り組み	p. 16 - 18
3.4・献身的に取り組む観光産業に携わる人々	p. 19 - 20
3.5・国際的な経験とインスピレーション	p. 21 - 24
	p. 24 - 26

## 4・全体的な視点

p. 27 - 28

## 5・モナコの観光および国連の持続可能な開発目標

5.1・モナコの観光にSDGsをどのように適用するか	p. 29
5.2・SDG 12: 持続可能な消費と生産パターンの確保	p. 30
5.3・SDG 13: 気候変動との影響に立ち向かうための緊急対策	p. 31
5.4・SDG 14: 海洋資源の保全と持続可能な開発	p. 32
5.5・SDG 15: 陸上の生態系の保護と復元	p. 33
5.6・SDG 11: 持続可能な都市とコミュニティ	p. 34
5.7・SDG 8: ディーセント・ワークと持続可能な経済成長	p. 35
5.8・その他のSDGsへの提言	p. 36
	p. 37

## 6・具体的な行動の遂行

p. 38 - 39

## 7・協力者の方々

ワークショップや個別インタビューに協力した団体組織 方法、調査、活動、編集委員会 DTPと出版	p. 40 - 41
---	------------

## 8・添付文書

データ引用元 「モナコ公国におけるサステナブル・ツーリズムに関する白書」に関連するその他のサイト	p. 42 - 43
---	------------



# ご挨拶： モナコ公国アルベール2世大公



*Palais de Monaco*

2021年8月

この数十年、観光産業は現代社会における人々の願望の高まりを反映し、世界経済における主要産業としての地位を確立しています。その一方で、観光が地球やその自然のバランスに与える影響は、時として目にあまるものになっています。特に、気候変動や生態系におよぼす悪影響の観点から、いくつかの行為は特に有害であることが分かっています。

このような悪影響が発生しているという事実はありますが、すべての観光活動を非難するのは公平なこととはいえないでしょう。なぜなら、環境に有害な観光の実態がある一方で、海外に目を向け、世界の宝を発見し、その美しさに驚嘆することは、持続可能なアプローチの一環として行う限り、環境問題に対する意識を高める強力な方法であるとわかっているからです。

現在、世界の観光産業がコロナ禍で苦しみ、改革を迫られている中、観光活動が環境に与える影響を測定し、ベストプラクティスを推進し、観光産業が回復した際には、地球のニーズに対する一般の人々の意識を高めながら、新たな開発モデルを確立するために、できる限りの努力をすることが重要です。

モナコ公国はこの必要性を強く認識しています。観光産業は1世紀半以上にわたり、わが国の経済、「art de vivre」（生活美学）、さらには国際的地位に極めて重要な役割を果たしてきました。

私たちは目の前にある地中海が、どれほど脆いものかを知っています。また、モナコだけでなく世界各地で、さまざまな環境保護の取り組みに長年にわたって尽力してきました。さらに、これからの中の世代のためにできる限りのことを行いたいと考えています。このような理由により、観光産業の改革の一翼をぜひ担いたいと思っています。

私たちにとって、これは極めて重要な問題であり、現在および今後も継続してお迎えする観光客の方々のニーズに応えるものです。

この白書は、モナコ政府観光会議局が中心となり、モナコ公国の観光分野におけるさまざまなステークホルダーが一丸となって取り組んだ結果であり、未来の世代のために環境を守るという私たちの共通の決意の象徴であり、行動の誓いでもあると考えています。

A handwritten signature in black ink, which appears to read "Albert II", is written over a horizontal line.



## ご挨拶：世界観光機関(UNWTO)事務局長



2021年 8月

観光はモナコの経済の重要な部分を占めており、本白書の作成は、地域全体の観光産業の明るい未来を可能にするレガシーを創造するという公国の献身的な取り組みの証です。

強力な政治的リーダーシップにより、モナコは特に海洋保護と温室効果ガスの排出削減に力を注ぎ、天然資源の保護において確固たる評価を得られました。このような断固とした行動により、モナコはラグジュアリーな観光と責任ある観光の間を埋めるような存在となっています。

コロナ禍により、海外旅行は突然の足踏み状態となりましたが、今日の観光を再考することで、各の経済と福祉の継続的な発展に貢献するような、より強力な明日の観光を構築するきっかけともなりました。世界観光機関(UNWTO)を代表して、モナコ公国政府が、ともすれば観光産業とそのバリューチェーンの回復という経済的側面のみに焦点が当てられることが多い、非常に困難なこの時期に、本文書を発表したことは称賛に値します。

サステナブル・ツーリズムこそが、観光の未来です。

政策や行動は、アジェンダ2030と持続可能な開発目標の達成に対する観光産業の貢献を支援するものでなければなりません。私たちは、共通の遺産を尊重し、環境を保護し、地域経済を支援し、安全に旅行し、デジタルプラットフォームを賢く利用しなければなりません。そうすることで、観光が世の力となることができるのです。

世界観光機関(UNWTO)事務局長  
ズラブ・ポロリカシヴィリ



## ご挨拶： モナコ政府観光会議局局長

観光の未来を想像し、ここに記す。

「モナコ公国のサステナブル・ツーリズムに関する白書」を作成、発行するというアイデアは、新型コロナウィルス感染症という言葉すら聞いたことがなかったときに浮上したもので、当時、観光産業が直面していた問題や批判は、主として観光産業の成長に伴う負の影響に焦点を当てるものでした。

健康危機が観光産業に歴史的な影響を与えたことで、この取り組みは今、別の次元に入っています。現在、最優先事項は観光業を再始動し、この危機によって深刻な影響を受けたすべてのステークホルダーが、再び経済的に自立できるよう支援することであるという認識で一致しています。

残念ながら、今後数年間はこの危機の結果に耐えていくことを受け入れなければなりませんが、それにもかかわらず、復興がこれまでとは異なる観光を再構築する機会となることを確実にし、この素晴らしい人的活動のプラスとマイナスの影響を十分に考慮する責任があります。だからこそ、モナコ政府観光会議局は、モナコ公国の観光業界全体の支援を受けて、観光を再考し、改革する義務があるのです。

持続可能性という概念自体が、徐々に再生という概念に移行しています。もはや、旅行によるマイナスの影響を最小限に抑えるだけではなく、旅行者やステークホルダー、地域住民に、利益をもたらしながら、経済的、社会的、文化的にプラスの影響を与えることが求められているのです。

幸い、私たちは白紙状態からスタートするわけではありません。この白書は、決してこのプロセスにおいて最初に積まれたレンガではありません。基礎は何年も前に、公国の機関やパートナーの共同政策によって築かれていました。この白書は、熟考と協議の重要なプロセスの成果であると自負しています。これにより、すべてのステークホルダーはさらなる努力を迅速に行うことになり、国連の持続可能な開発目標や公国のエネルギー転換目標と密接に結びついた、力強いサステナブル・ツーリズム戦略の構築に新たな推進力をもたらすことを確信しています。

**私たちが、これまでに成し遂げたすべてのことと、やり抜くという全員の決意を基に、お約束します。  
「未来はもっと明るくなります！」**

モナコ政府観光会議局局長  
ギイ・アントネリ

A handwritten signature in blue ink, appearing to read "Gérald Antener".



©B.Vergely

- 1 -

## モナコ公国における サステナブル・ツーリズム に関する白書



サステナブル・ツーリズムは単なる  
一過性のブームではなく、多くの  
ソリューションが登場しています。

気候や人間の健康など、世界は広範囲にわたる変化と  
闘っており、観光業界は、産業のおよぼす影響も見過ご  
すことなく、重要な課題を認識し、よりサステナブル・  
ツーリズムへと移行するための実践的な方法を検討し  
始めています。

モナコでは、人類の発展、環境の尊重、よりバランスのとれた様式、そしてサステナブル・  
ツーリズムを促進するために、あらゆるエネルギーを注いでいます。

モナコ公国は、約2km<sup>2</sup>の面積を持つ都市国家です。2020年の居住者数は、38,350人、55,919人が雇用されています。<sup>1</sup>

2020年、モナコに拠点を置くホスピタリティ分野の事業者は298社で、そのうち5%がホテル、95%がレストランなどの飲食業でした。また、50以上のデスティネーションマネジメントカンパニー(DMC)や観光ビジネス提供者がモナコ公国に登録されています。

モナコには、7つのコンベンションセンターとイベント会場(ホテルを除く)、11の主要観光スポットと美術館があります。3つのカジノが運営されており、小売店総数は465店舗を数え、そのうち60%は専門店です。モナコ公国は、オペラ、バレエ、フィルハーモニックオーケストラ、オーディオビジュアル協会、劇場、フェスティバル、展示会、スタジアム、モーターレースのグランプリなど、年間を通して活気に満ちたカルチャーシーンを誇っています。

## 道を拓くモナコ

モナコ公国は、海洋および自然界を保護し、知識を深めることに長年取り組んでおり、特にモナコ公国のアルベール2世大公が即位してからはその傾向を強くしています。

モナコ政府は、相互に依存する以下の4分野の政策を通じて、持続可能な開発と環境問題に取り組んでいます：

- エネルギーと気候政策
- 自然遺産の管理と生物多様性の保護
- 持続可能な都市と生活環境を促進するための行動
- モナコのコミュニティからの支援結集

このアプローチの一環として、**2030年までに1990年比で温室効果ガスの排出量を55%削減し、2050年までにカーボンニュートラルを達成する**という2つの目標を掲げ、2017年以降エネルギー転換を促進するための積極的な取り組みを行っています。また、モナコはこれらの分野で国際的に大きな存在感を示し、外交的影響力を持っています。さらに、人々を第一に考える国際協力政策(健康、教育、食料安全保障、社会経済的包摂)に取り組んでいます。最後になりましたが、特筆すべきは、モナコ公国は、海洋問題に対する倫理的かつ持続可能なビジョンを持って、海洋問題が必ず国際的な重要課題となるように努めていることです。

<sup>1</sup>出典：IMSEE <sup>2</sup>出典：モナコ会議局 <sup>3</sup>出典：IMSEE = グリマルディ・フォーラム、Espace Fontvieille、オーディトリアム・レーニエ3世、Espace Léo Ferré、モンテカルロスポーツディング、ワンモンテカルロ、Salle Bellevue。 <sup>4</sup>出典：DTC (非網羅的リスト) = モナコ大公自動車コレクション博物館、動物園、熱帯植物園(および鍾乳洞)、先史人類学博物館、海事博物館、モナコ海洋博物館、切手・貨幣博物館、モナコ旧市街博物館、モナコ国立新美術館(ソペール館、バロマ館)、モナコ大公宮殿、フランシス・ペーコン財団(予約制)

## 21世紀の課題に対峙する観光

観光産業は、地球規模の問題に直結しています。例えば、温室効果ガスの排出、汚染、エネルギー源や天然資源の枯渇、場合によっては不平等の深刻化など、さまざまな問題の一因となっています。

しかし、観光は平和と成長を促進するための強力な手段でもあるのです。人々を結びつけ、雇用を創出し、文化遺産、建造物遺産との出会いの場を作ってくれます。観光は、解決策の一部となることができますし、またそうしなければなりません。したがって、**観光産業のマイナスの影響を減らし、プラスの効果を拡大することが課題となります。**

## 役割を果たすことに意欲を燃やす モナコの観光産業

観光は、モナコ公国の社会経済的活力と世界的な知名度にとって極めて重要です。2019年、ホスピタリティの分野は**8,000人以上の従業員**(派遣社員を除く)を抱えるモナコ第2位の民間雇用者であり、**国内総生産(GDP)の9.1%を占めています**<sup>5</sup>。自らの責任を自覚し、模範を示すことに熱心な一流ホテルや会議場は、10年以上にわたり環境や持続可能な開発に向けた数々の取り組みを支持してきました。**ホテル客室の約88%**が環境認証を取得済みであり、97%が「エネルギー転換協定」<sup>6</sup>に署名しています。

イベント業界も、イベントの開催方法、開催する会場、内容そのもののいずれにおいても、環境への配慮が進んでいます。モナコは、**グローバルデスティネーションインデックス(GDS-Index)**<sup>7</sup>にも参加しており、2020年から2021年にかけては未曾有の状況であったのにもかかわらず、2020年にはベンチマークスコア**70.1%**を達成し、2018年の結果から13.24%の改善を実現しました。

今では、ほとんどの観光事業者が、これらの問題に責任を持つマネージャーやチームを任命しています。過去10年間、モナコ政府観光会議局は、『サステナブル・ツーリズム部門』を指揮し、観光客の意識を高め、既存の取り組みを促進し、事業従事者を動員するなどの活動を行ってきました。

## 観光デスティネーションの統一目標

モナコでは、いまや「持続可能性」が観光の重要な原則となっており、その基本的な傾向は、ビジネスとレジャーの両方を含む観光産業全体に浸透しています。現在、課題となっているのは、モナコ観光の完全な変革の推進です。そのためには、2020年から2021年にかけての状況を客観的に評価し、環境を尊重し、思い切った革新的な観光を推進するために、今後何ができるのかをより明確にする必要があります。

この全体的なビジョンは、サステナブル・ツーリズムの本質的な部分であり、業界の多様な事業従事者が個人的に参加し、またデスティネーション全体のために集合的にも参加していますが、他にもそのパートナーや、観光のエコシステムを構成するステークホルダー(お客様、住民、サプライヤー、地方自治体など)も含まれます。

「モナコ公国のサステナブル・ツーリズムに関する白書」はひとつのプロセスです。その一環として、私たちは2020~2021年の観光の現状を描き、その強み、弱み、機会、脅威を分析しました。この白書では、さまざまなステークホルダーをすべて動員しました。また、この調査結果を共有することで、改善のための道筋が見えてきました。これらの調査結果は、国連の「持続可能な開発目標」や公国との「エネルギー転換」目標に結びつく「サステナブル・ツーリズム」戦略を定義するために使用されます。

<sup>5</sup>出典:IMSEE    <sup>6</sup>出典:モナコ政府観光会議局    <sup>7</sup>GDS INDEX:4つのパフォーマンス基準(環境、社会、サプライヤー、デスティネーション管理)に基づいて毎年最も優れたサステナブル・ツーリズムデスティネーションを評価する組織。



©BVerghely

- 2 -

## 「モナコ公国における サステナブル・ツーリズム に関する白書」の編集方法



白書は、特定の問題や課題を詳細に説明し、そこに光を当てて解決策を見出すために有効な手段です。

このプロジェクトの着手にあたり、モナコ政府観光会議局は、エネルギー転換ミッションおよび環境局の支援を受けて、20年にわたりホスピタリティ産業のための持続可能な開発ソリューションを専門とする François-Tourisme-Consultants を任命しました。同社は、20年以上にわたりホスピタリティ業界の持続可能な開発ソリューションを専門としています。

その結果、この白書は、共同分析の賜物として生まれたものであり、信頼できる卓越した観光デスタイルーションとしてのモナコの地位と主導的立場を高めるための一歩となるものです。

使用された方法は、質的で包括的なアプローチを支持するものです。この方法は、4つの重要なフェーズで構成されています。

モナコ政府観光会議局は、モナコのサステナブル・ツーリズムを促進するために、意見や提案を寄せてくれたすべてのステークホルダーに感謝します。

## PHASE 1

### ステークホルダーとの意見交換

- フランス語と英語の**4つの質問票**で調査。
  - 居住者
  - 観光客
  - 観光事業従事者 - ビジネスリーダー
  - 観光事業従事者 - 従業員
- 事業従事者を対象とした、ビデオ会議による**4つのワークショップ**。
- 特定の主要ステークホルダーからより多くの情報を得るための**インタビュー**。
- 調査結果の中間レビュー。(モナコ政府観光会議局の年次レビューに実施)

## PHASE 2

### 調査と背景情報収集

国際ベンチマークは、約20の観光デスティネーション都市を対象として実施し、地域、国、国際レベルでのベストプラクティスおよび警戒すべき分野を明らかにしました。

#### 国システム

- ・ニュージーランド
- ・シンガポール
- ・スロベニア
- ・コスタリカ

#### 地域システム

- ・プロヴァンス=アルプ=コート・ダジュール
- ・ジェール・セヴェンヌ
- ・ブルターニュ

#### 都市システム

- ・リオン・パリ・グラスゴー
- ・ジュネーブ・ロンドン
- ・バルセロナ・ラスベガス
- ・ウィーン・マラケッシュ
- ・マルベーリャ
- ・ロードアイランド州

## PHASE 3

### データ分析

- 249名を対象としたアンケートのデータを分析。
  - 居住者 (32%)
  - 観光客 (17%)
  - 観光事業従事者 - ビジネスリーダー (10%)
  - 観光事業従事者 - 従業員 (41%)
- ワークショップおよび電話インタビューでステークホルダーから得たフィードバックの編集、優先順位付け、選択。
- 125名のステークホルダーが4つのプロフェッショナルワークショップに参加。

## PHASE 4

### 白書概要と共同案

この白書を完成させるための審査委員会が設置されました。



©BVergeraly

- 3 -

## 現在のモナコにおける サステナブル・ツーリズム



白書のこのセクションは、モナコのサステナブル・ツーリズムの現状を明らかにすることを目的としています。

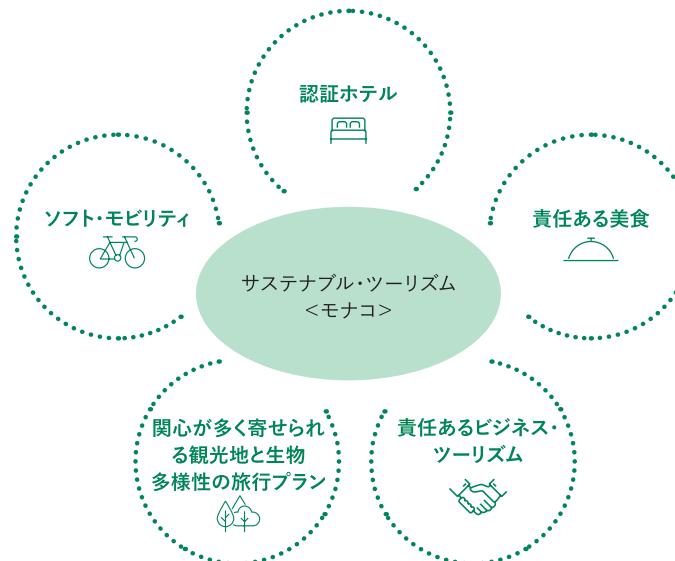
モナコのサステナブル・ツーリズムを分析するには、まず、この分野でモナコが提供している多様なインフラとサービスを検討する必要がありますが、これらは、このアプローチに取り組んでいる官民のステークホルダーが主導するものです。

モナコのサステナブル・ツーリズムは、責任ある観光を推進するという取り組みにおいて、すべてのステークホルダーが一丸となり、観光客、住民、事業従事者からの支持を得られる明確な全国的ロードマップに参加するという好ましい環境の中で発展してきました。

また、世界中のベストプラクティスにも目を向けています。それらはモナコというデスティネーションにインスピレーションを与え、将来の発展と継続的な改善のための有益な道となるでしょう。

## 3.I・高品質な観光商品

モナコは、持続可能な発展に取り組むワンランク上の観光に焦点を当てた観光デステイネーションです。高品質で多様性に富んだ、サステナブル・ツーリズム商品をご提供します。



### 認証ホテル



モナコ公国のホテルの**88%**は、国際的な環境認証もしくは持続可能性認証を取得しており、97%がモナコのエネルギー転換協定<sup>8</sup>に署名しています。

2020年には**ホテル客室の82%**が4つ星または5つ星の評価を誇り、2019年の全体の稼働率は66%でした<sup>9</sup>。

認証ホテルの**100%**が「グリーンチーム」を結成し、敷地内ではサステナブル・ツーリズムの旗を掲げています。

### 責任ある美食



オーガニックとして初の認証を受けたガストロノミックレストラン(モンテカルロ・ビーチ・ホテルのエルザ)をはじめ、2021年ミシュランガイド<sup>10</sup>でモナコに**9つの星が輝きました**。

世界で**1番最初にグリーングループ認証**を取得したレストランはモナコにあります(Le Café de Paris)。

**10**のレストランが、持続可能な漁業のための[Mr. GoodFish](#)という取り組みに参加しています。

現在までに、**29以上**のレストランが「[Responsible Restaurant](#)(責任あるレストラン)」スキームに署名しています。

<sup>8</sup>出典:モナコ政府観光会議局、FTC    <sup>9</sup>出典:IMSEE、モナコ政府観光会議局    <sup>10</sup>出典:ミシュランガイド = 3\*: オテル・ドゥ・パリの「Le Louis XV-Alain Ducasse」。La Table d'Antonio Salvatore at the Rampoldi, Le Grill, Yannick Alléno at the Hôtel Hermitage Monte-Carlo, "Yoshi"



## 信頼できるビジネス イベントとビジネス 旅行分野

環境認証を取得している展示および会議スペース(ホテルを除く)は**35,495m<sup>2</sup>**にもおよび、これはモナコの屋内専用施設床面積のおよそ73%にあたります<sup>11</sup>。

2020年のグローバル・デスティネーション・サステナビリティ(GDS)インデックスにおけるモナコのスコアは**70.1%**で、2018年に比べて13.24%向上しました。

モナコのMICEビジネスイベント分野のためのコミュニケーションキャンペーン「[REEVENT](#)」は、持続可能性を重視しています。



## 関心が多く寄せられる観光地と 生物多様性の旅行プラン

モナコ海洋博物館は、モナコNo.1の観光名所(2019年の国内博物館入場者数の84.6%)であり、コート・ダジュール<sup>12</sup>で**3番目**に訪問者数の多い場所です。1世紀以上にわたり、科学的な探求を行い、海洋および野生生物を保護することの重要性に対する一般的な認識向上に取り組んできました。

[ホエールウォッチング](#)では、ペラゴス保護区の海洋哺乳類と出会うために、モナコは観光客に持続可能な海のツアーを提供しています。

パブリックガーデンとプライベートガーデンを合わせると**43ha**で、これはモナコの総表面積の21%です。

**930本**の遺産樹木が、旅行者や住民のためのユニークな森の散歩コースを作っています。



## ソフトモビリティ

**80台**の公共エレベーター、**37台**のエスカレーター、8台の動く歩道があり、約**2km<sup>2</sup>**の広さのモナコの街を徒歩で簡単に移動することができます。これらのモビリティソリューションの詳細は、[Monaco Malin](#)の徒歩マップでご覧いただけます。

モナコの駅には毎日**102本**の列車が到着し、毎年**600万**人以上の旅行者がこの低炭素の交通手段を利用しています<sup>13</sup>。

モナコの駐車場には、急速充電スタンドの設置が進んでいる**154**カ所を含む全部で**650**の電気自動車の充電スタンドが設置されており、さらに、**25**カ所の路上駐車場にも、急速または準急速の充電スタンドが設置されています。[モナコの充電ステーションの地図](#)は、新しく設置された充電ステーションを含むよう定期的に更新されており、各充電ステーションの空き状況がリアルタイムで表示されます。

「[モナコ公国へのグリーントラベルガイド](#)」には、ニース空港からモナコへの移動に利用できる低炭素ソリューションがすべて掲載されています。

[モナコ内での環境に配慮した様々なモビリティソリューション](#):バイオディーゼルを動力源とする公共バス(電気バスは現在試用中)、カーシェアリング(Mobee)、公共の電動自転車スキーム(Monabike)、水上バス。

## 3.2・恵まれた地域環境

2005年に即位したアルベール2世大公は、モナコ公国の持続可能な開発への取り組みの推進力となり、公国政府の支援を受けて、**強力な環境政策**に貢献しています。

### 明確なロードマップ

実効性のある成果を生むためには、多くの場合、明確な行動計画と、それを実行する十分に調整された責任あるチームがあるかどうかにかかっています。これはモナコでも同じです。大公の政府は、持続可能な開発を懸案事項の中心に据える政策を取り組んでいます。**2050年までに温室効果ガスの排出量を削減し、カーボンニュートラルを達成する**というエネルギー転換目標を達成するためには、すべての人がそれぞれの役割を果たす必要があります。

観光と環境に関して、モナコでは官民のパートナーシップが数多く存在し、極めて効果が高くなっています。モナコでの観光産業を、真に実体を伴うエネルギー転換とするための尽力はもちろん、現在も将来もサステナブル・ツーリズムデスティネーションとしてのモナコの評判を確かなものにするためには、緊密な連携と継続的な協議が必要です。持続可能なデスティネーションとしてのモナコ公国をアピールするために採用されたマーケティング戦略とメッセージ発信は、大多数のステークホルダーの支持を得ている実践的な取り組みに基づいており、私たちのローカルなアプローチに信頼性と一貫性があることを保証するものです。

地元のステークホルダーは、特に気候変動と海洋保護の分野で、同様の願望と熱意を共有しています。

### 自然を尊重する観光を推進するために積極的に活動する公的機関

モナコ政府のさまざまな部門が、この観光デスティネーションである国の持続可能な開発ロードマップに沿って活動しています。多くの政策が実施されており、そのなかには、観光産業に直接影響を与えるものもあります。

#### 環境局が展開中のもの

- レスポンシブルなプログラムには「[責任あるレストラン](#)」や「[責任あるショップ](#)」が属し、[モナコの大気や海水浴場の水質検査](#)をしています。また、[ソフトモビリティ](#)や公共交通機関の利用の促進も含まれます。さらに、環境保護に対する意識を高めるためのイベントを開催しています。
- 都市は、樹木規定の適切な順守を確認し、[緑地を管理](#)しています。
- [エネルギー転換ミッション](#)は、エネルギー転換に関するホテル事業者の協定実施を監督しており、今後はその他の観光事業者に対しても拡大していく予定です。
- モナコ市庁舎は、[あらゆる形態の廃棄物](#)に積極的に対応しています。国際社会との連帯は、国際協力局が担当しています。
- 文化局は、[文化と地域遺産](#)の振興に努めています。
- 最後に、[社会問題](#)については、[社会福祉および社会サービス局](#)と雇用局が主に担当しています。

・11 出典：IMSEE、モナコ政府観光会議局、FTC ・12 出典：CRTコート・ダジュール、IMSEE

## サステナブル・ツーリズムを主導する モナコ政府観光会議局

モナコ政府観光会議局は、2010年には早くもサステナブル・ツーリズムの推進に着手し、現在この分野のすべてのステークホルダーに情報を提供し、動員し、支援することを目指しています。数多くの出版物やガイドの作成に加えて、「グリーンチーム」というネットワークを設立し、環境に配慮したイベント支援を行っています。2018年と2019年には、「Green is the new glam(グリーンこそ新たな魅力):日本ではカタカナ表記で「レスポンシブル・ラグジュアリー」と名付けられたオンラインキャンペーンが展開され、モナコの観光業の最大の強みである持続可能性を強調しました。

最後に、2017年以降、モナコ政府観光会議局は、ビジネス観光の持続可能性に関する主要国際指標であるグローバル・デステイネーション・サステナビリティ・インデックス(GDSインデックス)のモニタリングを監督しており、モナコは着実に成果を向上させています。現在、サステナブル・ツーリズムは、モナコの観光開発戦略の中心的政策であり、モナコ政府観光会議局のすべての活動の指針となっています。

## モナコ公国アルベール2世財団、 基本的技術・科学専門知識の 貴重な供給源に

モナコ公国アルベール2世財団は、持続可能な開発の分野で重要な役割を果たしており、生物多様性や海洋の保護、気候変動への対策、資源の浪費防止などを目的とした取り組みや新規プロジェクトの支援活動を行っています。財団の専門知識、通信資源、コミュニティ全体を動員する能力は、サステナブル・ツーリズム活動の展開を加速させるための貴重な資産となっています。

## 民間企業と 非営利セクター、 具体的な取り組み をするパートナーたち

持続可能な開発のためモナコのホテル業界がとった行動の質の高さに注目していただきたいと思います。とりわけモナコの主要な観光業を担うモンテカルロ・ソシエテ・デ・パン・ド・メール・グループ(SBM)が果たしている役割には特筆すべきものがあります。SBMは2007年以来、グリーナー・ラグジュアリー(環境により優しいラグジュアリー)というコンセプトのもと、環境、社会政策に積極的に取り組んでおり、「より責任のあるラグジュアリー(レスポンシブル・ラグジュアリー)」を推進し、このような価値がすべてのサービスや活動を通して広められていくことに努めています。

非営利団体もまた、持続可能な開発の取り組みに大きく貢献しています。その一例が、情報提供や啓蒙を目的とした環境意識向上イベントを開催しているMonacologyです。



©B.Vergerly

## 効果的な官民の相乗効果

白書のために調査した事業従事者たちは、サステナブル・ツーリズムを促進するメッセージをデザインし、普及させるために、**公的機関とより密接に協力したい**と言っています。また、**都市開発や観光インフラ、自社のプロジェクトが環境面で最良の手本となること**の重要性を強調しました。

最後に、民間企業の代表者たちは、環境移行の推進には、官民のステークホルダーが協力することが有益な手段であると考えています。彼らは、共通の環境文化と原則、そして一貫した目標を求めています。共同プロジェクトに着手することを計画しており、場合によっては、グループ調達を行うなどして、人的、財政的、技術的なリソースを共有することもあるとのことです。

- モナコは、2030年までに1990年比で温室効果ガス排出量を55%削減し、**2050年までにカーボンニュートラルを達成するという目標を設定しています**。
- モナコ公国には、18の遺産種をはじめとする、およそ**880種の植物**が生育しています。
- また、モナコには**1,600m<sup>2</sup>**の都市型菜園があり、生物多様性に配慮したパーマカルチャー手法で有機栽培された作物が栽培されています。
- 2つの海洋保護区でおよそ50haを保護しており、2018年には教育的に管理された3番目の海洋エリアが造されました。
- 海洋種と陸生種の目録作成とモニタリング**のためのプログラムが実施されています。その中には、モナコの海に生息するダスティーグルーパー(ハタの一種)の個体数が、20年間で15匹から100匹に増えたプログラムも含まれています。また、モナコの岩はハヤブサの避難所にもなっています。
- 海水浴場(Solarium、Pêcheur、Larvottoの各ビーチ)では、5月から9月の間、毎週水質検査が行われています。分析結果はまとめられています<sup>14</sup>。

・14出典:環境局

### 3.3・観光客と住民がともに支援する取り組み

---

#### コスモポリタンな観光客とは

---

モナコは、レジャー観光、ビジネス観光のどちらにあっても魅力的なデスティネーションです。2019年、モナコのホテル到着客数は合計377,500件<sup>15</sup>で、モナコにおける観光客の消費額はコート・ダジュールの他の地域の2倍で、1日平均197ユーロ<sup>16</sup>となっています。

#### プロフェッショナルで持続可能な行動を高く評価される方たちです

---

今回の調査では、大多数の観光客の皆さまがサステナブル・ツーリズムには、どのようなことが伴うかをある程度理解していると回答しています。また、社会的、経済的な問題よりも、環境問題(廃棄物、資源の利用、生物多様性、汚染規制)が優先事項だと考えています。

#### 観光デスティネーションの努力を評価します

---

調査対象となった観光客は、モナコがサステナブル・ツーリズムに努力しているデスティネーションであることを認識しており、ご利用可能なソフトモビリティのサービスを特に高く評価しています。観光客の皆さまは、国の尽力はサービスプロバイダーの努力に優先するということを明確にしています。したがって、持続可能性はデスティネーションとしてのモナコの魅力を強く主張するものであり、重要な優先事項として扱われるべきものなのです。

#### とはいえ、ターゲットを絞った明確な責任あるコミュニケーションを待っています

---

観光の「持続可能」な側面が見えてこないことは、取り組みの信頼性や潜在的な追加コストよりも、むしろ頻繁に議論されている問題です。観光客は、すでに提供されているサービスの持続可能性について、より明確でわかりやすい情報を期待しています。

・15出典:2019年-IMSEE、モナコ政府観光会議局、CRTコート・ダジュール　・16出典:2009年から2018年までの平均値



© BVergerly

## 居住者もサステナブル・ツーリズムのすべての面に精通しているわけではありません

調査対象となった居住者のうち、モナコ公国がサステナブル・ツーリズムに取り組んでいるとみなしている人は半数にとどまっています。経済事業者や組織的なステークホルダーの努力は、国民にはあまり気づかれていないかったようです。居住者が最も顕著な取り組みとして挙げたのは、交通機関とソフトモビリティ、様々な持続可能認証、そして廃棄物の管理と分別の3つでした。

## しかし、観光の社会経済的利益は評価しています

公国の人々は、観光業が経済や雇用、モナコのイメージ、文化や遺産などにプラスの効果をもたらすと確信しています。一方、マイナスの影響としては、環境、交通、また比較的程度は低いものの清潔さなどが多く挙げられました。

## 必ずしもオーバーツーリズム(観光公害)に悩まされることなく

モナコ人や居住者は、オーバーツーリズムを心配しているわけではありませんが、夏には多くの観光客が訪れ、冬には、はるかに少ないという、モナコの観光産業が季節に非常に左右されることに批判的です。もっと関心が高いのは、都市の交通状況を改善する必要性で、たとえば郊外のパーク＆ライド施設の数を増やすことですが、現在その多くは建設中です。

## 3.4・献身的に取り組む観光産業に携わる人々

---

### サステナブル・ツーリズムへの一貫した アプローチの必要性

---

モナコの観光業各分野は、環境問題への取り組み度合いが様々です。しかし、それぞれが利用できる環境管理システムやツールは数多くあります。モナコ公国的目的は、ホテル、会議、イベント、飲食店、名所、商店など、観光経済を構成するすべてのネットワークに一貫性を持たせることです。現実的な解決策としては、主要な環境指標を統合する一方で、各事業者が独自の指標を選択し、独自のペースで進められるようにすることが考えられます。また、環境や社会への取り組みを始めたばかりの事業者が有利なスタートを切ることができるように、最も優れた取り組みを行っている施設や会場の経験を共有することも考えられます。

### 環境テーマを中心としたビジョン

---

業界関係者が挙げた主なサステナブル・ツーリズムの課題は、環境への配慮を中心としたものでした。

- 食品廃棄物をはじめとする廃棄物の削減
- 食材などを地元で持続可能な方法で調達
- エコロジー、経済、社会の適切なバランスの追求
- 資源(水、エネルギー、材料)の使用量の削減

その他の指標として事業従事者と観光客の両方から挙がったものとしては、汚染を引き起こす活動の規制や、生物多様性の維持、促進などがありました。

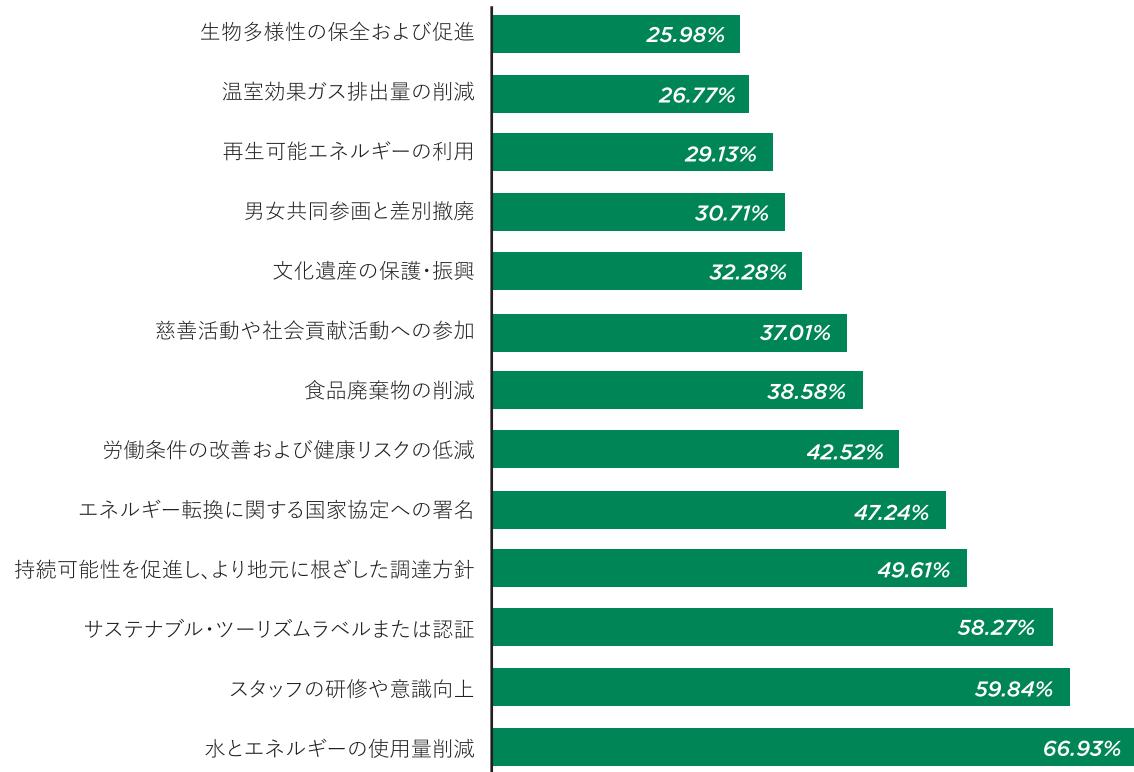


©B Vergaly

## 観光事業従事者が採用した取り組み

オンライン調査に回答した事業従事者の大半は、目標を定めて利益を得るための行動(水やエネルギーの使用量を削減)、基本的な行動(スタッフの研修や意識向上)、さらには熱意があり要求の高い行動(認証要件を満たす)など、さまざまな行動をすでにとっていると回答しています。

### すでに実施されたアクション<sup>17</sup>



・17 出典:François-Tourisme-Consultants - Sustainable Tourism in Monaco Survey / January 2021(モナコのサステナブル・ツーリズム調査／2021年1月)

## 観光産業全体を一つのエコシステムで支える必要性

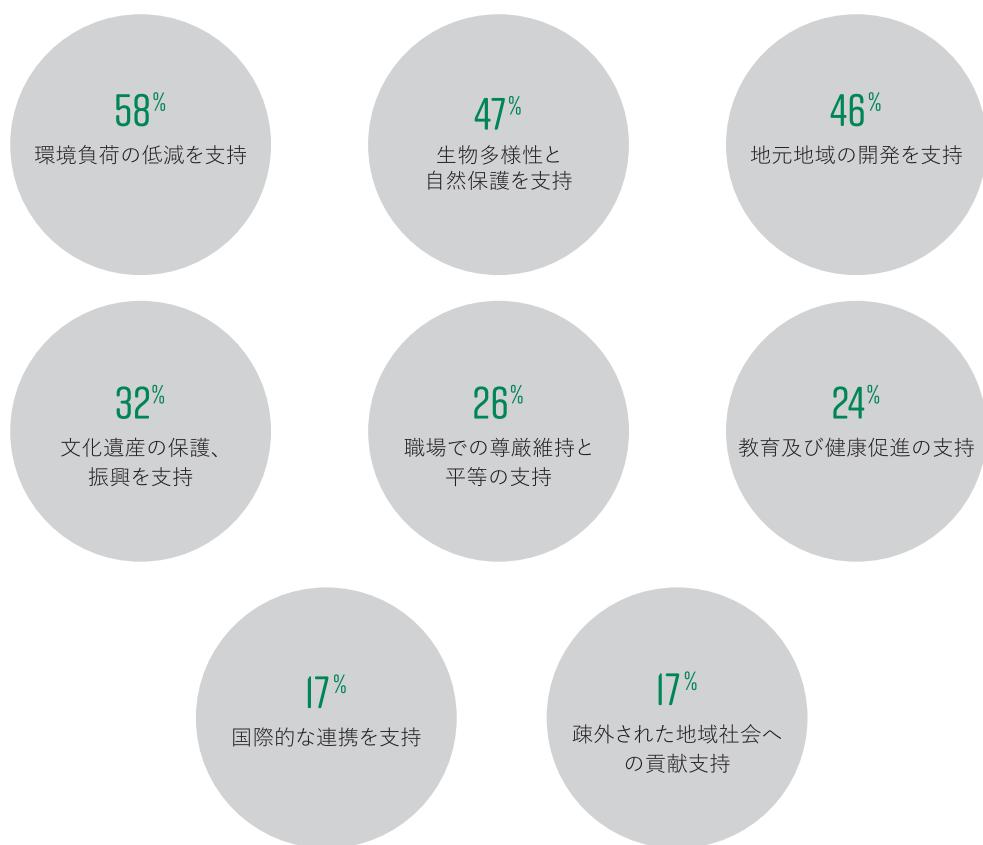
調査対象の事業従事者たちは、持続可能な取り組みが実際に効果を上げていることを示しました。特に、コストの削減はもちろん、廃棄物の削減や、ポジティブな価値観でチームをまとめることができたということです。これらの事業従事者は、自分たちの活動が環境に与える影響を緩和することを主な動機としています。

従業員やビジネスリーダーは、持続可能な活動に積極的に参加していることを確認していますが、顧客やサプライヤー、地域のパートナー（非営利団体、住民、Lycée Hôtelier高校）に対して、彼らの取り組みに参加するように促すことは、全くとは言わないまでも、ほとんどありません。環境、経済、社会への貢献は、気づきさえあれば、誰もが個人的にできるものです。観光事業者とそのステークホルダーとの間で、より多くの相乗効果を生み出す必要があることは明らかです。そうすることで、共にひとつのプロフェッショナルなエコシステムを形成することができるのです。

## 行動を起こそうとする紛れもない意欲

調査対象となったビジネスリーダーと従業員の大多数が、持続可能な取り組みを継続し深めたい、あるいは新たな取り組みを開始したいと回答しました。これらの回答は、まず環境面での取り組みを進め、その後に社会面に焦点を当てようという意図が広く共有されていることを示しています。

新しい取り組みのウィッシュリスト<sup>18</sup>

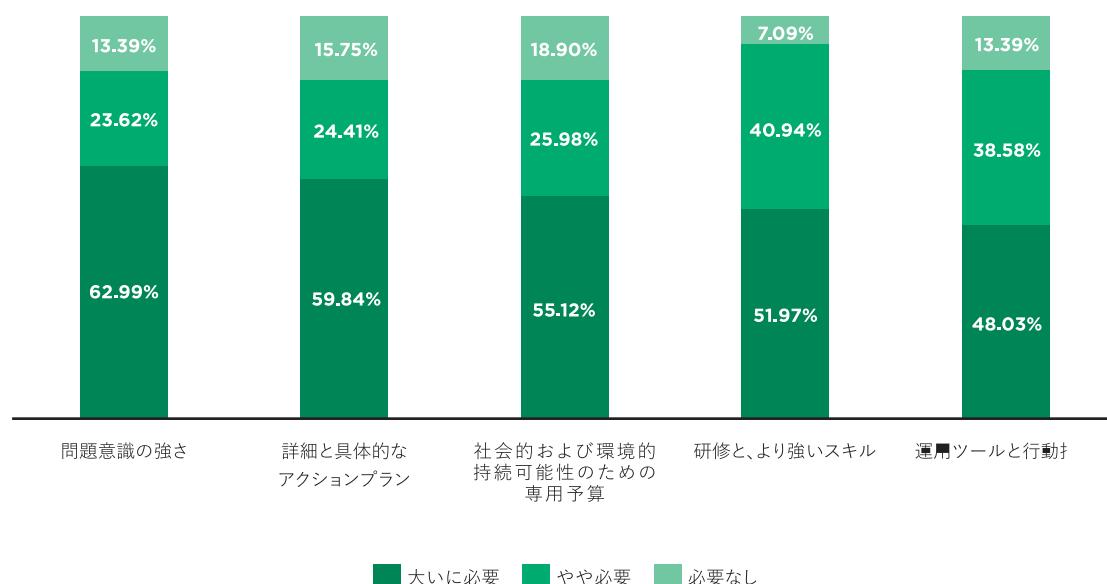


<sup>18</sup>出典：François-Tourisme-Consultants - モナコ調査におけるサステナブル・ツーリズム / 2021年1月

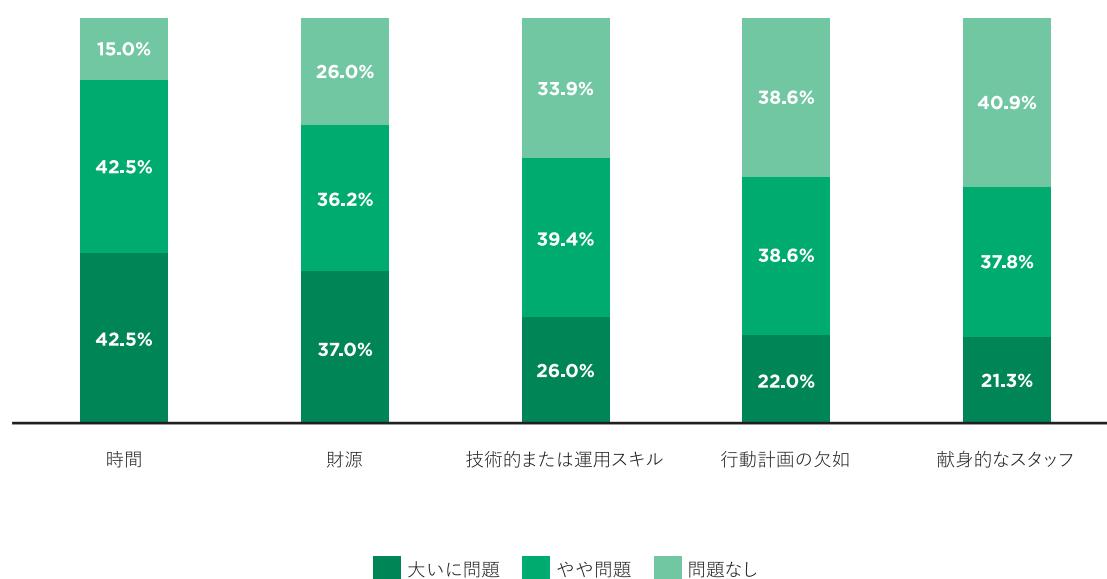
## ベストプラクティス導入を遅らせる要件とハードル

今回の調査では、持続可能性への取り組みを継続するために必要なものや、前進を防ぐ障害について、観光業界の事業従事者に質問しました。ほとんどの回答は、事業の組織や運営方法に焦点を当てていました。ニーズとしては、スタッフの意識向上、アクションプラン、専用予算が挙げられました。一方、主な障害としては、時間、資源、技術的スキルの不足が挙げされました。

持続可能性を高めるための5つの要件<sup>19</sup>



持続可能性の採用を遅らせる5つの障害<sup>20</sup>



・19出典:François-Tourisme-Consultants -モナコ調査におけるサステナブル・ツーリズム/ 2021年1月  
・20出典:François-Tourisme-Consultants -モナコ調査におけるサステナブル・ツーリズム/ 2021年1月

## 3.5・国際的な経験とインスピレーション

サステナブル・ツーリズムについての国際的な分析が、いくつかの観光国、地域、都市に焦点を当てて行われ、モナコのプロジェクトに思考の材料と新しいアイデアを提供してくれました。すべてではありませんが、モナコと競合する観光地もあり、サステナブル・ツーリズムの原則を採用しているところも増えてきています。この比較研究は、競合分析や、最も「徳の高い」デスティネーションのランキングではありません。それよりも、モナコにとっての成功の鍵、転用可能な解決策、そしてインスピレーションの源を特定することを目的としています。

---

### 研究で明らかになった成功のための10の鍵

---

-1-

#### 観光デスティネーションとその観光商品の国際的評価

渡航地をプロモートする方法として、ユネスコ(世界遺産、生物圏保護区、ジオパークなど)のような名誉ある賞は、積極的にコミュニケーションすることができます。その地域のプロモーションについても、計画の正当性が高ければより信頼性を得ることができます。それは、地域の人々を一つの統合された目標に向かって結集させることのできる良い機会でもあります。もしその評価基準がレベルであったり、何かの認証であるとするならば、真摯にかつ継続的に改善されることが保証されている、国際基準(GSTC、Green Globe、国連SDGsなど)を利用するべきでしょう。

-2-

#### 現地活動を導くための明確な共通の戦略

持続可能な開発の問題や価値観で、人々や組織は結びつきます。しかし、どのような戦略と方法を採用するかは非常に重要です。すべてのステークホルダーに受け入れられるロードマップがなければ、調和のとれた調整はできません。その方法は、観光デスティネーションの熱意に見合った人的、財政的、技術的リソースに裏打ちされたものでなければなりません。真のビジョンを持たない者は、ただエネルギーを消耗し、必要な集団的推進力を与えることができません。リソースが不足したり、大幅に減少したりすると、勢いが失われ、プロセスが急停止してしまうことさえあります。明確な戦略があれば、他のセクター(都市計画、開発、コミュニケーションなど)との避けられない交渉や取引がかなり楽になります。

-3-

#### 共有された文化と行動に基づいて構築されたアプローチ

効果的な集団運動を支えるためには、共通の価値観に基づくコンセンサスが不可欠です。求心力を作る重要なものです、それだけでは十分ではありません。具体的な行動がなければ、ステークホルダーを真に結びつけることはできません。このような共通文化は、議論や対話(イベント、研修、行動など)、共同プロジェクトを通じて徐々に構築していく必要があります。

## - 4 -

### 模範を示すリーダー

サステナブル・ツーリズム運動の調整や指導を担当する組織は、デスティネーション全域でベストプラクティスを展開し、継続的な改善の精神を持っていることが評価されます。調査対象となつたさまざまなデスティネーションで、観光局、地域観光局、国の機関が良い手本を示そうと努力しており(時には認証申請さえもして)、動員の役割と集団的な運動を強化しています。

## - 5 -

### サステナブル・ツーリズムのリーダーと ステークホルダーの密接な関係

仲介者やリーダーが現場で活躍し、事業従事者と定期的に連絡を取り合っているデスティネーションでは、より具体的な成果が得られ、重要なマイルストーンが一層早く達成できる傾向があります。観光事業者にとって、話を聞き、助言し、支援を提供してくれる組織があることは、観光事業者が事業慣行を転換し商品の再構築を検討する際に、貴重な助けとなります。積極的なリーダーシップは、集団的なアプローチのきっかけとなります。サステナブル・ツーリズムのリーダーがその役割を放棄してしまったデスティネーションでは、前進は明らかに急停止してしまいます。

## - 6 -

### 反応が早く明確なビジョンを持った官民連携

これまでの経験を分析すると、サステナブル・ツーリズムのための適切な体制指導のもと、官民のビジョンを共通の目標に向けて統合すれば、より大きな影響を与えられることがわかります。オペレーションや戦略的なワーキンググループにおいて、すべての関係者が積極的な役割を果たす協調的なアプローチは、事業従事者が長期にわたる関与をする動機となります。グローバルガバナンスと官民連携の組み合わせは、関連性が高いだけでなく非常に効果的です。

## - 7 -

### コミュニケーション管理とブランドイメージ

コミュニケーションの最適な管理は、デスティネーションを宣伝し、関与する観光産業の事業従事者を奨励するために非常に重要です。これは、デスティネーション全体のエコフレンドリーな観光活動を調和させる強力な方法です。真に効果的なコミュニケーションを行うためには、しっかりとしたポジティブな姿勢で、様々なチャネルを利用しなければなりませんが、一般の人々が理解しやすい事実に基づいた情報を提供することも忘れてはなりません。

## - 8 -

### 迅速な進歩のための効果的ツール

サステナブル・ツーリズム分野のベストプラクティスを促進するための共有ツール(ベンチマーク、プラットフォーム、ウェブサイト、メディア、ガイド、コミュニケーションなど)は、アクセスが容易で使いやすく、要求の厳しいユーザーにも適しており、進歩的な内容で、もちろんスムーズに導入できるものであれば、より効果的であると思われます。提供する観光商品の範囲を明確にし、一貫性を持たせることを確実にするために、いくつかのデスティネーションでは、包括的なブランドを作成して既存のさまざまな認証を受け入れるようにし、承認された国際基準に依存しないものには保護措置を講じています。

## - 9 -

### 研修という機会共創と緑の創造のために

初回であれ継続的であれ、研修は、技術的なスキルやその他の特定スキルを強化するだけではなく、ネットワークを育て、事業従事者同士を結びつけるのにも役立ちます。共同プロジェクトの共有、開発のよい機会もあります。これは、革新的な観光商品を生み出し、構築するために不可欠です。

## - 10 -

### ステークホルダーを一体化する大型イベントでデスティネーションの知名度を高める

文化、ビジネス、季節の祭り、スポーツ、環境など、いずれの分野であっても、一回限りのイベントや定期的なイベントを開催することは、通常、その年のハイライトとなり、ステークホルダーやデスティネーション全体にとっての触媒の役割を果たすことになります。サステナブル・ツーリズム関連の大規模なイベントは、デスティネーションの知名度を高め、すべてのステークホルダーがベストプラクティスを取り入れる動機付けとなります。





©Bverigely

- 4 -

## 全体的な 視点



この「モナコ公国 のサステナブル・ツーリズムに関する白書」の作成を通じて、参加者や事業従事者から質問が出され、経験が共有され、アイデアが浮かび、提案がなされました。本章は、それらを要約しています。このリストはすべてを網羅しているわけではありません。むしろ、モナコの今後のサステナブル・ツーリズム戦略とアクションプランについての議論を促すことを目的としています。

“モナコの今後のサステナブル・ツーリズム戦略についての議論を促す”

環境問題のすべてが、白書や持続可能な戦略の構築で解決できるわけではありません。いくつかの問題は、観光自体に内在するもので、モナコでも他のどの観光地でも同じように関わるものです。例えば、モナコでは観光客が必然的に海外からの旅行者となるため、そのカーボンフットプリントなどが挙げられます。モナコはぜひ貢献したいと考えていますが、関連する技術やソリューションに、時として手が届かないこともあります。しかし、大きなイベント(F1グランプリなど)の影響を変えるため、また数多くの工事や混雑する道路交通があっても、モナコが、観光客がリラックスして充電できる場所であり続けるために、相当の努力がなされており、実際に加速させることも可能です。これが重要なのは、**観光ステークホルダーとモナコの目的は、グリーンウォッシングなど全く感じさせずに、それぞれの影響力のある分野でローカルに行動することであるからです。**

---

観光産業従事者は、それぞれ独自の方法で持続可能な開発に取り組む傾向があるため、彼らをひとつの旗の下にまとめることが具体的な課題となります。ポジティブで責任感のあるサステナブル・ツーリズムという共通の目標や価値観のもと、共有ツールや共同の取り組みを生み出すことができます。このような基盤に基づけば、各組織はベストプラクティスを採用し、触媒としての役割を果たすことができるはずです。これにより、モナコでの観光体験を向上させるための、**一貫性も持続可能性もこれまで以上となる観光商品、さらには新しい商品への道が開かれることになるでしょう。**

---

**“観光体験を向上させるための一貫性も持続可能性もこれまで以上となる観光商品”**

モナコの観光業界のあらゆる分野のステークホルダーは、環境移行のための行動を起こし、前進することを促されます。実際の成功例を強調することで、すべての人に対しサステナブル・ツーリズムの強いメッセージを発信できます。このようなポジティブなメッセージで、観光中のすべての段階(モナコ滞在前、滞在中、滞在後)で観光客や観光地の主要なオピニオンリーダーに**責任ある観光商品をもっと周知しなければなりません**。この運動に参加してもらうよう、セクターのパートナー、サプライヤーを対象にすることもいいでしょう。

---

白書に参加した観光ステークホルダーは、サステナブル・ツーリズムへの取り組みを実際に定着させる必要性に賛同しています。卓越した成果を得るために、実用的で、意欲を掻き立て、熱意あるアプローチが不可欠であると考えています。その場合の課題は、経済的、倫理的、文化的、社会的な問題を無視することなく、**業界の代表者と密接に協力しながら、モナコ政府観光会議局が主導的に環境に焦点を当てた集団的な運動を構築することです。**

---

この運動は、最も関連性の高い**国連の持続可能な開発目標**に基づいて構築することができます。

これに基づいて、正確な目標と結果を測る指標が承認され、個々の業界事業従事者と観光デスティネーション全体の療法の進捗状況を判断するために定期的な評価がされることになります。この方法は、観光事業者とデスティネーションの両方にとって、**継続的な改善のための共通基盤を確立する**のに役立ちます。

**“継続的な改善のための共通基盤”**



©B.Vergely

- 5 -

## モナコの観光および 国連の持続可能な 開発目標



持続可能な開発(SDGs)を  
支援するグローバルな目標

2015年9月、政府と市民社会の2年間にわたる交渉の末、国連加盟国193カ国は、あらゆる形態の貧困をすべての国で撲滅し、地球を保護し、すべての人に繁栄を保証するための「[2030アジェンダ](#)」を採択しました。持続可能な開発に関するすべてのテーマを網羅する17の具体的な目標が特定され、今では国際的なコンセンサスとなっています。

17のSDGsを合わせたものは、公共政策のみにとどまらず、ますます多くの企業や組織の[社会的、環境的責任](#)を果たすための行動や取り組みを形成するロードマップとなっています。

毎年、各国は17の持続可能な開発目標と169の詳細ターゲットそれぞれについて、その進捗状況を報告するよう求められています。

“ 現地調査の結果に基づく私たちの研究では、SDGsのうち、以下の6つの目標がこの順で特別な関連性をもつことがわかりました:12、13、14、15、11、8。 ”

## 5.I・モナコの観光にSDGsをどのように適用するか

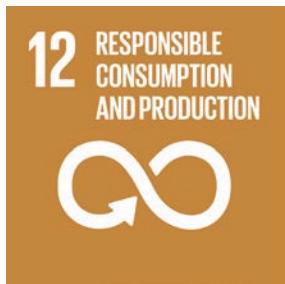
国連のアプローチは、地球規模での持続可能な開発を促すことです。それぞれのSDGには、大きなテーマがあり、社会的なものもあれば、経済や環境に重点を置いたものもあります。169のターゲットのうち、いくつかは観光に直接言及しています(8.9番、12.b番、14.7番)。しかし、観光セクターは、これらの特定のターゲット以外にも、例えば、自然を尊重した、賢明で責任ある人間と経済の発展を支援することで、積極的な貢献をすることができます。

**2030アジェンダが開始されたとき、モナコ公国は直ちにこの世界的な動きに参加しました。**モナコ公国は、モナコ政府の国際協力局が支援する取り組みを中心に、持続可能な開発目標を推進するために数多くの持続可能な開発プロジェクトやアクションに関与しています。例えば、チュニジアや西地中海地域の若者を対象としたフェアトレード観光のマイクロプロジェクトを支援しています。同様に、モナコの政府開発援助は、マダガスカルとマリにおけるホテル、飲食分野の研修を奨励しています<sup>21</sup>。

SDGsに含まれる課題のすべてが、モナコの観光とそのステークホルダーに当てはまるわけではありません。17のSDGs中で特定された169のターゲットを分析し、モナコの観光に適しているかどうかを判断しました。現地調査の結果に基づく私たちの研究では、SDGsのうち、12、13、14、15、11、8の6つの目標が特別な関連性を持つことがわかりました(この順で)。これらの持続可能な開発目標をより詳細に検討することで、モナコが観光デステイネーションとして成功している分野と、改善の余地がある分野を特定することができます。



<sup>21</sup> 出典:モナコの政府開発援助



## 5.2・SDG 12

### 持続可能な消費と生産パターンの確保

#### 5.2.1・観察と分析

##### 強み

- 主要なホテル、会議場、環境ラベルや認証に関心を持つ一部観光地の強い関与。
- これらの施設では、エネルギー、水の使用量、生成廃棄物の量を慎重に管理し、場合によっては削減するよう努力中。
- 現在、ラグジュアリーのコンセプトは、希少性と効率性に重点を置いて再編成されており、自制と地球への敬意という目標への適合性が高くなっている。量より質。
- 政府の政策（[2030年までに使い捨てプラスチックの「廃棄ゼロ」を目指す](#)）、ベストプラクティス（廃棄物対策、持ち帰り用の「Petite Boite」の取り組みなど）、ステークホルダーに消費や労働習慣を変えるよう働きかけるインセンティブ（[SMART+スキーム](#)など）。

##### 改善すべき分野

- ショップやレストランは、環境への取り組みのレベルを上げる必要がある。
- デスティネーション全体の適切な環境パフォーマンス指標が不足。そのため、集合的KPIダッシュボードを導入することが困難。
- 環境に配慮した原材料の調達が、事業従事者によって大きく異なる。

EXAMPLE

#### 国際認証取得の会議場

[グリマルディ・フォーラム](#)は、2008年にISO14001の認証を取得しました。社内の包括的な取り組みである「Act Green」のもと、以下のことを実現しています：

- エネルギー使用量を2008年比で35%削減。
- 廃棄物の分別率を250%向上。
- 廃棄物の50%以上を分別し、リサイクル。
- 来場者一人当たりの水使用量を半分に削減。
- 2,500m<sup>2</sup>の屋根置き型ソーラーパネルの設置。
- 使い捨てプラスチック（ストロー、カップ、ボトル、皿など）の廃止。
- 電力の100%を再生可能エネルギーでまかなう。

#### 5.2.2・可能な行動例

##### 持続可能なイベント

- 主催者にアドバイスとサポートを提供し、イベントができる限り持続可能であることを確認。
- 主催者のコミットメントのレベルに基づいて、最も必要な場所への直接サポート。
- グローバル・デスティネーション・サステナビリティ(GDS)を継続し、世界の上位10の目的地での場所を目指す。

##### 共同アプローチ

- モナコ政府観光会議局の支援のもと、ベストプラクティスや有用な情報を共有するためのオンラインプラットフォームを構築することで、事業従事者がサステナブル・ツーリズムの管理に積極的に参加できるようにする。
- 共通のパフォーマンス指標の定義。

- 既にモナコで使用されている既存のベンチマークに基づき、「マスターベンチマーク」を構築。これは各組織に期待される最低限の環境要求事項を提供する。

##### 廃棄物管理

- ステークホルダーの意識を高め、奨励して、循環型経済を促進するために、すべての観光分野で継続的な改善アプローチを行なう。

##### 環境に責任のある調達

- 持続可能なサプライヤーと調達に関するデータを共有し、より集中的に使用するよう手配。



## 5.3・SDG 13

### 気候変動とその影響に立ち向かうための緊急対策

#### 5.3.1・観察と分析

##### 強み

- モナコ公国は、2030年までに温室効果ガスの排出量を1990年比で55%削減し、2050年までにカーボンニュートラルを達成するという2つの重要な目標を掲げている。
- 2019年のモナコ公国の温室効果ガス排出量は82万6千トンと推定され、1990年比で20%削減されている<sup>22</sup>。
- ロードマップを主導し、経済のさまざまな部門を動員するために、「エネルギー転換ミッション」が設立された。
- ホテル経営者の97%を含む観光関係者が「エネルギー転換協定」に署名。ワークショップや情報へのアクセスが可能となり、行動を起こすための実用的なツールを利用できるようになった。
- 観光施設が接続されている代替エネルギー源（海洋温度差発電、廃棄物焼却によるエネルギー回収など）の大幅な利用。
- 観光施設の屋根に設置されたソーラーパネルの増設。
- モナコ公国のエネルギーおよび気候計画は、2014年に欧州エネルギー賞（EEA）の公式認定を受けた。
- モナコに滞在する観光客に適した低炭素交通ネットワークが十分に整備されている。
- クルーズ船による重油の使用規制。
- 夏の気温上昇の影響を緩和するために、庭園や生物多様性のための散歩コースや給水を促進するプロジェクトが進行中（観光客および居住者向け）。

##### 改善すべき分野

- 観光客やビジネス旅行客のモナコへの渡航が、主にニースのコート・ダジュール空港を経由する航空便に依存していること。
- 自家用車が、観光客が使用するもうひとつの主要交通手段であること。また、観光業に従事する人々が好む交通手段のひとつでもあること。
- ゴミの分別と廃棄ロスによるCO2排出。
- 建物の断熱性の低さは大きな問題です。パラソルヒーターの使用は、マイナスのサイン。

EXAMPLE

#### 炭素の影響を減らすためのSMART+スキーム

2018年にモナコが排出した87,000トンのCO<sub>2</sub>のうち、建物のエネルギー使用は34%を占めています。削減を加速するために、ホテルや民間ビルの共同スペースが優先事項として挙げられています。モナコ政府が3年間にわたって資金提供するSMART+スキームは、エネルギー使用管理をより簡単にし、消費量削減を目的とした行動を展開するために、これらのステークホルダーに装備と研修を提供することを目的としています。モンテカルロ・ベイ・ホテル&リゾートでのテスト段階を経たのち、観光客向けの宿泊施設では約10%の削減が見込まれています。

暖房、空調、冷蔵、換気、照明、給湯、コンピュータなどの個々のエネルギー使用をリアルタイムで監視することで、不要な消費を特定し、最も効率的なソリューションに投資することができます。このアプローチは、以下のようなそれぞれの構造に固有の様々な対策によって完成されなければなりません：ビル管理の改善、予防保全の実施、メンテナンス、機器交換、照明のLED化、エネルギー回収、環境にやさしい日常生活、環境に配慮した日常の習慣と慣行、再生可能エネルギー。

#### 5.3.2・可能な行動例

##### 運輸とモビリティ

- すべての観光客のためのソフトモビリティを引き続き促進。例えば、「低炭素」商品や旅行プランを作成することなど。

##### 排出量の計算

- イベントの主催者や観光客に、二酸化炭素排出量を計算するツールを提供し、意識向上を図るとともに、低炭素の代替手段や、地元組織を支援する環境プロジェクトへの貢献方法を提案する。

・22 出典：IMSEE, Environment Directorate



## 5.4・SDG 14

### 海洋資源の保全と持続可能な開発

EXAMPLE

#### 強み

- モナコ公国アルベール2世大公による、海洋の保護、科学的知識の向上、これらの環境に見られる自然の豊かさについての意識向上への尽力。
- 政府、海洋研究所、モナコ公国アルベール2世財団など、モナコの数多くのステークホルダーの取り組み。
- 1976年以来、フランス、モナコ、イタリアの3カ国は、科学、技術、法律、行政面での協力に関する協定を結んでいる。RAMOGE協定に基づき、保護区は海洋環境への脅威の防止と汚染対策を目的として、協調原理に基づき管理されている。
- 2020年、モナコの港湾運営会社SEPMは270のターミナルを設置し、ヨットやその他のプレジャーボートに陸上電気を提供とともに、真水の給水や廃水の排出を可能にした。
- フォンヴィエイユとポート・エルキュールのマリーナが欧州のクリーンポート認証(CWA16387)を取得。
- 寄港中の影響を軽減するためのクルーズ産業に対する要件(燃料品質、スクラバーの義務化)。寄港数は減少したが(10年間で乗客数が30%と40%減少<sup>23)</sup>、質は向上した。
- モナコおよび国際的なステークホルダーの動員と努力による地中海のクロマグロ資源の継続的な再生。
- 数多くのレストランオーナーや運営者が、地元の旬の魚介類を持続的に消費することに取り組み(Mr Goodfishラベル、MSC(持続可能な漁業の測定手段)など)、コート・ダジュールやリグリアンの水産業、公国の牡蠣養殖を支援。
- 3つの海洋保護区(ル・ラルボットが33.6ha、ル・トンバン・デ・スペルグが1.9ha、海洋博物館の下に1つの教育用海洋保護区)。モナコの全領海は、「ペラゴス」海洋保護区の一部となっている<sup>24)</sup>。
- 地中海を代表する3つの種が良好な状態で生息。ラルボット保護区の藻場には450個以上のタイラギ貝が生息しており、ダスキーグルーパー(ハタの一種)の個体数は1997年の15匹から現在では100匹以上に増加<sup>25)</sup>。

#### 改善すべき分野

- 排水と油性のビルジ水(船底の汚水)の処理に引き続き注意を払い、特に、すべての人が適切な役割を果たすようにする。
- 地中海における活気あるウォータースポーツや観光活動。環境に配慮した活動の支援、奨励が可能。
- 有害な化学物質の使用(ホテルやレストラン、ウォータースポーツ)を減らし、汚染や健康被害のリスクを抑える。
- 特定のプラスチックは使用制限されているにもかかわらず、観光事業従事者は、最終的に海にたどり着く可能性のある多くの製品を使用し続けています。この種の汚染のリスクに対抗するためには、プロバイダーやサプライヤーを動員することが不可欠。

### 海洋保護活動の先頭に立つモナコ海洋博物館

アルベール1世大公は、ご自身の海への情熱を分かち合うために1906年に**海洋学研究所**を設立しました。モナコやパリを訪れる人々の興味を掻き立てるような見識を披露し、自然と文化の環境としての海について学ぶ機会を提供しています。この博物館は、環境保護の仲介者としての役割に加えて、さまざまな取り組みを通じて、生態系への日常的な影響を軽減することにも力を入れています。例えば、大人2人と子ども2人が使用できる博物館の入場料と列車の旅がセットになったチケットを販売しています。また、海洋汚染に対する意識向上と行動促進を目指す連合で、世界41カ国の200以上の水族館と海洋生物センターが参加する「World Aquariums #ReadyTo-Change to #BeatPlasticPollution」にも加盟しています。

海洋学研究所は、モナコ公国アルベール2世財団とのパートナーシップのもと、2010年に「**モナコブルーインシアティブ**」を設立、このイニシアティブは7年後には「**モナコオーシャンウィーク**」へと発展しました。これらのイベントは、科学者、主要な意思決定者、NGO、民間セクター、市民社会の交流を促進し、持続可能なソリューションの創出と採用、海洋保護と社会経済的発展の相乗効果を促進するものです。2019年に設立された非営利団体が推進するBeyong Plastic Med(BeMed)など、さまざまなイニシアティブが生まれています。

## 5.4.2・可能な行動例

### 海洋環境の保護

- ▶ 海洋に影響を与える行為について、事業従事者や観光客を対象とした研修や意識向上。

### 持続可能なクルージングとヨット

- ▶ これらの活動のベストプラクティスのモナコ憲章を作成して施行。

・23出典: CRTコート・ダジュール・フランス ・24出典: IMSEE、都市アメニティ局、環境局 ・25出典: 都市アメニティ局、環境局



## 5.5・SDG 15

### 陸上の生態系の保護と復元

#### 5.5.1・観察と分析

##### 強み

- モナコ公国は、表面積の約21%が緑地で覆われています。およそ12の緑地（約26ヘクタール）が公開されています。また、17ヘクタールのプライベートガーデンもあります。
- 自然空間は、「サステナブル・ツーリズム」の愛好家が求める重要なポイントのひとつです。
- モナコでは、18の遺産種を含む880の植物種が確認されています。これらの植物は、希少な昆虫や無脊椎動物、さらにはハヤブサのペアに数多くの微生息地を提供しています<sup>26</sup>。
- 2011年以降、「樹木規定」により、植物の管理や手入れが規定されています。例えば、都市環境局の許可なく樹木を伐採することは禁止されています。
- サンマルタン庭園の生物多様性の小道では、訪問者が地元の種を見ることができます。
- 昆虫ホテルや蜂の巣が設置され、化学物質の使用を制限された緑地が維持されています。
- 公国では都市部の菜園が発達しています。例えば、TERRAEの支援のもと、約1,600m<sup>2</sup>の菜園では、生物多様性に配慮したパーマカルチャー手法を使用して有機栽培された作物を、消費のためだけでなく、地元の学校との教育プロジェクトの一環として生産しています。

##### 改善すべき分野

- モナコの観光が生態系に与える影響を評価するためのデータや指標の不足。
- 生物多様性の保全と発見のため、ホテル事業者のエネルギー転換協定に相当するものがまだないこと。

EXAMPLE

#### ホテル・メトロポール・モンテカルロによる啓発と植樹の活動

マントン近郊で発生した火災から2年後の2017年、[ホテル・メトロポール・モンテカルロ](#)は、ホテルスタッフの子どもたちを対象とした「Mon arbre à moi(私の木)」という活動を開始しました。マントンの町と国立森林局の協力を得て、子どもたちは保護者と一緒に、ガラヴァンの高台に114本のオリーブの木を植えました。これは昔のオリーブの森を再生させるとともに、参加者に地中海の森の特徴について啓蒙することになりました。

2019年、ホテル・メトロポール・モンテカルロは、「La mer commence ici(海はここから始まる)」と名付けられたキャンペーンの一環として、ビーチの清掃活動への参加をスタッフに呼びかけました。WWFによると、地中海で発見された廃棄物の52%は観光業によるものです。マントン町とのパートナーシップにより、海岸沿いのゴミを回収し、環境をクリーンにし、ビーチの快適さを向上させました。この取り組みは、従業員の環境意識の向上にもつながりました。ホテルの内部手順の変更は、さらに明確に説明され、従業員は使い捨てプラスチック（飲料用ストロー、小袋など）をはじめとする廃棄物を削減するために、**環境に優しい日常的な習慣**や方法を採用するよう奨励されました。

#### 5.5.2・可能な行動例

##### 陸上の生物多様性について学ぶ:

- 陸上の生物多様性に影響を与える行為について、事業従事者や観光客を対象に研修を行い、認識を高める。
- 環境に配慮した、モナコの人里離れた場所を訪れるための旅行プランや小旅行を推進する。

<sup>26</sup>出典:IMSEE、都市計画局、環境局



## 5.6・SDG II

### 持続可能な都市とコミュニティ

#### 5.6.1・観察と分析

##### 強み

- 優れた公共交通網、環境的アプローチ、誰にとってもアクセスしやすい。
- 非常に定期的な鉄道サービスがあり、モナコ駅には1日110本の列車が到着。
- 観光客は海路でモナコに行くことが可能。近代的な港のインフラが整っている。
- 歩くことが推奨され、多数のエスカレーターとエレベーターが利用可能。
- よく発達したソフトモビリティ。
- 数多くの駐車場があり、充電ステーションをはじめとする駐車場施設の開発が進行中。
- 都市環境のかなりの部分(公国約21%)が緑地化されており、樹木規定により植物が尊重されている。
- モナコの文化と遺産の保護に尽力。
- 一般市民や財産に対する安全性の確保。
- 定期的に監視され、質の高さを保つ大気や海水浴場の水質。
- モナコの鉄道駅の利用者が示す一般的な満足度。
- 質の高い地元の生産者(蒸留所、ビール、牡蠣、チョコレートなど)。
- 経済的に活気のある都市で、近隣地域との接続も良好。

##### 改善すべき分野

- 現地の生活費が高いため、現地で暮らすことのできないホスピタリティ業の従業員が比較的多い。
- 市街地では交通量が多く、駐車場の確保が難しく、ピーク時には通勤者の交通量が多い。
- コンパクトな都市開発、多数の建設現場、自然環境における大工事を伴う埋め立てプロジェクト。
- 鉄道輸送の質と信頼性はやや不十分。
- モナコの観光の組織化、発展に対する住民の関与の低さ。

EXAMPLE

##### 模範的な アーバンモビリティ

観光客や顧客を対象とした調査では、モビリティへの取り組みと利用可能商品の幅広さがモナコという観光デスティネーションの最大の強みであると報告されています。地元のバス会社である [Compagnie des Autobus de Monaco](#)(CAM) は、バイオディーゼルで走る車両に切り替え、EEV規格に準拠し、ドライバーに環境に優しい運転方法をトレーニングすることで、二酸化炭素排出量を削減しました。このようなCAM社が提供するモビリティソリューションに加えて、公共の電動自転車スキーム([Monabike](#))が展開され、太陽光発電で走行する電気水上バスも導入されています。

[Monapass](#)アプリは、CAMのすべてのサービス(旅行プランニング、予約、支払い、時刻表など)をカバーしており、まもなくカーシェアリングや公共駐車場にも対応する予定です。

CAMのほぼすべてのバスには、車椅子でも乗車できるようスロープが設置されており、視覚障害者のための音声アナウンスもあります。

また、これに加え、電気自動車やハイブリッド車のタクシーやリムジン([ELIMO](#))、電気自動車のカーシェアリング([MOBEE](#))、40近く公共駐車場を備えたパーキングソリューション、充電ステーションの増設など、民間企業によるサービス開発も進んでいます。

#### 5.6.2・可能な行動例

##### 観光と地域経済の相互関係

- モナコの環境に配慮した既存の商品やサービスの販売促進。  
地元で購入し、地元の生産者を支援することを奨励。

##### 文化、歴史、遺産

- ポストコロナの経済情勢において、観光が文化や遺産のステークホルダーをどのようにサポートできるかを検討。
- モナコの文化をさらにアピールして、観光客の目に留まりやすくし、観光の重要な論点とする。モナコにしかないものであり、移動や外部委託ができないものであるため。

##### 持続可能な開発と観光研究所

- 観光に対する住民の意見を定期的に評価。
- 国際機関(UNWTO、欧州旅行委員会)の活動から着想を得て、サステナブル・ツーリズム研究所の設立を検討。

##### 旅行者税

- 旅行者税を導入し、その収入をサステナブル・ツーリズムの発展のためにリソース活用。



## 5.7・SDG 8

### ディーセント・ワークと持続可能な経済成長

#### 5.7.1・観察と分析

##### 強み

- 2020年までの着実な観光収入成長。
- クオリティと評判の継続的な向上、およびホテルの改装。
- 民間観光業の主要な雇用主であるモンテカルロ・ソシエテ・デ・バン・ド・メール・グループが、労働条件と環境の尊重を重視。
- デステイネーション全域で幅広い観光活動が可能であり、観光セクターの回復力を高めている。
- 労働条件を改善するための予防措置と意識向上措置。
- ギャンブル依存症のリスクに対処するための行動を起こすカジノ。
- いくつかの経済的、社会的緩衝装置(CCTRや、一時解雇に関する規定の強化、ホスピタリティ産業の96%の企業に自宅待機手当を支給するなど<sup>27)</sup>が、コロナ禍によるモナコと観光企業への影響を緩和するのに役立ったこと。

##### 改善すべき分野

- モナコの観光分野における障がいのある労働者数が不明なこと。
- 同等の責任を負い同等の役割を担う男女間の給与の差に関する情報がないこと。
- モナコの経済に対する観光の実質的価値による貢献の強調。

EXAMPLE

#### モナコ経済における観光の重要性

モナコのホスピタリティ産業=モナコのGDPの9.1%(5億1360万ユーロ／2019年)同セクターは公国のGDPに対し5番目に大きな貢献をしています<sup>28)</sup>。

ホスピタリティ収入=8億800万ユーロ／2019年(72%はホテルによるもの)<sup>29)</sup>。

モナコのホスピタリティ産業=2019年の公国の雇用(臨時雇用を含まない)の14.1%を占めています。このセクターはモナコ第2の大雇用主です。また観光業は臨時雇用のユーザーとしても2番目で、20%を利用しています(建設業の40%に次ぐ)<sup>30)</sup>。

2018年のホスピタリティ従業員のうち、女性はわずか31%でした(小売業では54%)。従業員の平均年齢は、飲食業では36.3歳、ホテルでは41.2歳となっており、対してモナコの民間企業の平均は42歳でした<sup>31)</sup>。

注:世界的に見ると、観光業はGDPの10.4%、雇用の10%を占めています<sup>32)</sup>。公国では、このセクターは経済の原動力であると同時に、統合と自己啓発を促進する強力な手段でもあります。

#### 5.7.2・可能な行動例

##### 誰でもアクセス可能に

- ▶ ベストプラクティスを強化し、インフラを継続的に改善して、100%のアクセスができるすることを目指す。

##### 男女共同参画

- ▶ 女性の権利担当官と緊密に協力し、同担当官の調整の役割と国の施策が観光部門全体に適用されるようにする。

##### 観光の経済的重要性

- ▶ 観光GDPの算出。

・27出典:IMSEE, Caisse Sociale de Monaco ・28出典:IMSEE, Caisse Sociale de Monaco

・29出典:IMSEE、税務局 ・30出典:臨時雇用機関、IMSEE ・31出典:IMSEE、Caisse Sociale de Monaco ・32出典:ILO、WTTC

## 5.8・その他のSDGsへの提言

モナコの観光に最も関連性のあると特定された6つのSDGsに加えて、この白書の作成中に多くの行動提案がなされました。これらの提案は、モナコ公国観光の未来のためのインスピレーションを与える取り組みの幅広いパネルに追加されます。



- ▶ サステナブル・ツーリズムとベストプラクティスに関し、**将来の観光従事者の研修を奨励**。
- ▶ Lycée Technique et Hôtelier de Monacoで学ぶ学生の各学年カリキュラムに、具体的な授業を取り入れる。
- ▶ モナコ国内および会場や施設での持続可能な開発活動に関する**従業員の継続的な研修を支援**。企業間ワークショップの提供。

- ▶ 「自然にリフレッシュできる」旅行プラン（緑地、エアコンではなくミスト散布のある区域、噴水など水を使用した建築物、海水浴スポットなど）を造成してモナコの涼しいエリアをアピールする。
- ▶ このような情報を、他の位置情報付きデータ（電気自動車の充電スタンド、公衆トイレ、景色の良い場所、鑑賞すべき樹木など）と組み合わせて、無料アプリや**インタラクティブな地図**にします。



- ▶ 持続可能なデジタル化について観光ステークホルダーを**教育**し、デジタル汚染を抑制し、倫理的または環境負荷の低い技術の使用を奨励。

- ▶ 観光ステークホルダーによる国際的な連帯と慈善活動を**継続**し、評価し、構築する。いくつかの取り組みは、複数の施設間で共有することができる（スキルベースの慈善活動、寄付、ボランティア休暇など）。
- ▶ サステナブル・ツーリズム、特に都市国家モナコにおけるものは、スポーツのように**平和と相互尊重を促進**する方法であることを**主張**。



©B.Vergely

- 6 -

## 具体的な 行動の遂行



「始まりは行動にあり」...  
ヨハン・ヴォルフガング・フォン・ゲーテ  
「ファウスト」(1770年)

50年前の探検、発見を目的とした観光から、最近のマスツーリズムに至るまで、私たちは今、言わば**高水準に焦点を絞った観光**というものに向かっています。この高水準とは、投資や経営モデルだけでなく、新しい価値観にも反映されています。この現象は、世界最高のデスティネーション各地にはっきりと見ることができます。これから観光は、包括的、相互支援的、公正、参加型、持続可能なものになるでしょう。これは、観光とは何かということに新たな意味を与えるものです。ホリディリゾートであると同時にビジネスやイベントの中心地であり、世界的な出会いの場であり、伝統と歴史のある地でもあるモナコにふさわしいアプローチと言えるでしょう。

2021年1月に開催されたモナコの観光の未来に関するワークショップでのフィードバック：「デスティネーションとしてのモナコはサステナブル・ツーリズムにおいて先行していますが、他の多くの国は一層の迅速さで動き始めています。このようなリーダーたちと肩を並べるためにさらなる努力が必要です。」

モナコの観光ステークホルダーとそのパートナーは、日々の実践と、モナコ公国で提供する観光商品やサービスの両方において、これまで以上に迅速に環境問題を解決することに取り組むエコシステムを共に形成しています。これらの事業従事者は、互いの経験を生かしあって協力し、この観光デスティネーションが今後も必ず持続可能なソリューションの採用を継続し、モナコが地球とそこに住むすべての生命を尊重する包摂的観光の世界的リーダーであることを明確に示そうという意欲にあふれています。

**モナコ公国の観光業は、その精神において「持続可能」というよりも、社会的に有益で根本的に再生可能なものを目指しています。**モナコの観光分野は、最高品質のラグジュアリーなデスティネーションであり続けると同時に、すべての人の生活水準の向上に、明確かつ効果的に貢献したいと考えています。

モナコは、環境的、社会的価値に焦点を当て、ラグジュアリーの意味を作り変えることで、観光産業全体を**21世紀の課題に対応する先進的なアプローチの一環とすることを目指しています**。その課題とは、自然社会と私たちの幸福に寄与していくことで、お客様に真に忘れがたい滞在を保証することです。顧客体験は、現在デスティネーションマーケティングの中心となっているものですが、健康的な生活、ウェルネスを感じる穏やかな体験へと作り変えられています。その道のりは厳しく、野心的ですが、モナコの観光が配慮の行き届いた、効果的で持続可能な方法で発展するためには必要なことです。

実際には、共に観光を刷新するのであれば、主要サプライヤーやステークホルダーとともに、すべての観光従事者が、**それぞれの役割を果たす**必要があります。ステークホルダーやプロジェクトが、共通の取り組み、具体的な目標、そして国連の「持続可能な開発目標」のような信頼性の高い国際的に認められたツールを用いれば、調整は比較的容易にできるでしょう。

**戦略的で運用可能な「サステナブル・ツーリズム」計画の作成が、このプロセスの次の重要なステップとなります。**優先されるのは環境的、社会的ソリューションに対する意識向上努力を継続し、一層の努力をすることとなるでしょう。最終的に、得られた結果と進捗状況を定期的に分析することで、関係者はモナコ政府観光会議局と連携しながら、将来の行動を選択し、計画することができます。

この「モナコ公国のサステナブル・ツーリズムに関する白書」は、私たち全員が誇りを持って構築すべき、新しいロードマップに続く道にある道しるべです。今後、モナコ政府観光会議局を中心に、この分野のすべてのステークホルダーは、このサステナブル・ツーリズム戦略の一環として計画を立てていただきたいと思います。

この数年、パートナー企業の活動によって基礎が築かれてきました。今、モナコ政府観光会議局は、この白書をもって、「サステナブル・ツーリズム」戦略と、短期、中期の目標を設定した行動計画の策定に向けて、観光ステークホルダーに協力を求めるものです。これらの戦略、計画は2022年に正式に発表される予定です。



- 7 -

## 協力してくださった 協力者の方々



支えあうことで、より強く推進  
できることを感謝いたします。

この白書は、モナコ政府観光会議局の主導により、共同作業で作成されたものです。編集委員会、審査委員会、モナコ政府観光会議局の海外駐在員事務所、コンサルティング会社、そしてモナコの観光関係者の皆様、ありがとうございました。この白書は皆様のものでもあります。

## ワークショップや個別インタビューに協力した団体組織

---

- Alcyon Riviera Touring
- Association "Au cœur de ma ville"
- Overseas representative offices of the Monaco Government Tourist and Convention Authority
- Casino de Monte-Carlo
- Monaco Bus Company (CAM)
- Convention Bureau - Monaco Government Tourist and Convention Authority
- Cruise Services SAM
- Department of Education, Youth and Sport
- Department of the Environment
- Monaco Government Tourist and Convention Authority
- Elimo
- Fair&Fairy
- Fairmont Monte Carlo
- Prince Albert II of Monaco Foundation
- François-Tourisme-Consultants
- Grimaldi Forum
- Monte-Carlo Société des Bains de Mer Group
- Hôtel Ambassador Monaco
- Hôtel Columbus Monte-Carlo
- Hôtel de Paris Monte-Carlo
- Hôtel Novotel Monte-Carlo 3 star
- Hôtel Port Palace
- Incentive Concept
- InspireME Monte Carlo
- Oceanographic Institute
- Laget & Partners
- Le Méridien Beach Plaza
- Monaco City Hall
- Métropole Shopping Monte-Carlo
- Mission for Energy Transition
- MOBEE
- Monaco Economic Board
- Monaco Yacht Show

- Monte-Carlo Bay Hotel & Resort
- Monte-Carlo Beach
- Museum of Prehistoric Anthropology
- Oceanographic Museum of Monaco
- One Monte-Carlo
- Peace and Sport
- Raising Stones
- Société Monégasque d'Assainissement
- Stars'N'Bars

## 方法、調査、活動

---

- François-Tourisme-Consultants

## 編集委員会

---

- Direction du Tourisme et des Congrès de Monaco
- Mission pour la Transition Energétique de Monaco
- Direction de l'Environnement de Monaco
- François-Tourisme-Consultants

## DTPと出版物

---

- Agence Hémisphère Sud
- Monaco Government Tourist and Convention Authority
- François-Tourisme-Consultants



©BVergerly

- 8 -

## 添付文書



詳細はこちら...

本白書に掲載されているデータを入手したウェブサイト  
と、その主な貢献者を以下に列挙します(抜粋)。

## データ引用元

---

- Caisses Sociales de Monaco - [www.caisses-sociales.mc](http://www.caisses-sociales.mc)
- Comité Régional de Tourisme (CRT) Côte D'Azur France - [www.cotedazurfrance.fr](http://www.cotedazurfrance.fr)
- Monegasque Bus Company - [www.cam.mc](http://www.cam.mc)
- Monaco's Official Development Assistance - [www.gouv.mc/Gouvernement-et-Institutions/Le-Gouvernement/Departement-des-Relations-Exterieures-et-de-la-Cooperation/Direction-de-la-Cooperation-Internationale](http://www.gouv.mc/Gouvernement-et-Institutions/Le-Gouvernement/Departement-des-Relations-Exterieures-et-de-la-Cooperation/Direction-de-la-Cooperation-Internationale)
- Department of Urban Amenities - [www.gouv.mc/Gouvernement-et-Institutions/Le-Gouvernement/Departement-de-l-Equipement-de-l-Environnement-et-de-l-Urbanisme/Direction-de-l-Amenagement-Urbain](http://www.gouv.mc/Gouvernement-et-Institutions/Le-Gouvernement/Departement-de-l-Equipement-de-l-Environnement-et-de-l-Urbanisme/Direction-de-l-Amenagement-Urbain)
- Department of the Environment - [www.gouv.mc/Gouvernement-et-Institutions/Le-Gouvernement/Departement-de-l-Equipement-de-l-Environnement-et-de-l-Urbanisme/Direction-de-l-Environnement](http://www.gouv.mc/Gouvernement-et-Institutions/Le-Gouvernement/Departement-de-l-Equipement-de-l-Environnement-et-de-l-Urbanisme/Direction-de-l-Environnement)
- Department of Tax Services - [www.gouv.mc/Gouvernement-et-Institutions/Le-Gouvernement/Departement-des-Finances-et-de-l-Economie/Direction-des-Services-Fiscaux](http://www.gouv.mc/Gouvernement-et-Institutions/Le-Gouvernement/Departement-des-Finances-et-de-l-Economie/Direction-des-Services-Fiscaux)
- Monaco Government Tourist and Convention Authority - [www.visitmonaco.com](http://www.visitmonaco.com)
- François-Tourisme-Consultants - [www.francoistourismeconsultants.com](http://www.francoistourismeconsultants.com)
- Global Destination Sustainability Index - [www.gds.earth/index/](http://www.gds.earth/index/)
- Monte-Carlo Société des Bains de Mer - [www.montecarlosbm.com](http://www.montecarlosbm.com)
- Michelin Guide - [www.guide.michelin.com](http://www.guide.michelin.com)
- IMSEE - Monaco Statistics (IMSEE) - [www.imsee.mc](http://www.imsee.mc)
- Mission for Energy Transition of the Principality of Monaco - [www.transition-energetique.gouv.mc](http://www.transition-energetique.gouv.mc)
- Monaco Convention Bureau (DTC) - [www.cvb.visitmonaco.com](http://www.cvb.visitmonaco.com)
- United Nations Sustainable Development Goals (SDGs) - [www.un.org/sustainabledevelopment/fr/](http://www.un.org/sustainabledevelopment/fr/)
- International Maritime Organization - [www.imo.org/fr](http://www.imo.org/fr)
- World Tourism Organization (UNWTO) - [www.unwto.org](http://www.unwto.org)
- Organisation des Nations Unies (ONU) - [www.un.org](http://www.un.org)
- SNCF Train Express Régional - [www.ter.sncf.com/sud-provence-alpes-cote-d-azur](http://www.ter.sncf.com/sud-provence-alpes-cote-d-azur)
- Société Monégasque de l'Électricité et du Gaz (SMEG) - [www.smeg.mc](http://www.smeg.mc)
- Superyacht Eco Association - [www.superyachtecoindex.com](http://www.superyachtecoindex.com)
- Monaco City Hall - [www.mairie.mc](http://www.mairie.mc)
- World Travel and Tourism Council (WTTC) - [www.wttc.org](http://www.wttc.org)
- Your Monaco - [www.yourmonaco.mc](http://www.yourmonaco.mc)

## 「モナコ公国におけるサステナブル・ツーリズムに関する白書」に関連するサイト

---

- Association des Industries Hôtelières Monégasque - [www.aihm-monaco.com](http://www.aihm-monaco.com)
- Association Monégasque pour la Protection de la Nature - [www.ampn-nature-monaco.com](http://www.ampn-nature-monaco.com)
- Sustainable Tourism Unit of the Monaco Government Tourist and Convention Authority - [www.visitmonaco.com/fr/environnement/26450/une-destination-engagée](http://www.visitmonaco.com/fr/environnement/26450/une-destination-engagée)
- Centre Scientifique de Monaco - [www.centrescientifique.mc/fr](http://www.centrescientifique.mc/fr)
- ECORISMO, sustainable tourism forums and exhibitions - [www.ecorismo.com](http://www.ecorismo.com)
- European Travel Commission - [www/etc-corporate.org](http://www/etc-corporate.org)
- Extended Monaco - [www.extendedmonaco.com](http://www.extendedmonaco.com)
- Prince Albert II of Monaco Foundation - [www.fpa2.org](http://www.fpa2.org)
- Global Sustainable Tourism Council - [www.gstcouncil.org](http://www.gstcouncil.org)
- Professional Equality Index (French Ministry of Employment) - [www.travail-emploi.gouv.fr/droit-du-travail/égalité-professionnelle-discrimination-et-harcèlement/indexegapro](http://www.travail-emploi.gouv.fr/droit-du-travail/égalité-professionnelle-discrimination-et-harcèlement/indexegapro)
- Oceanographic Institute – Foundation Albert I, Prince of Monaco - [www.oceano.org](http://www.oceano.org)
- Monaco s'Engage contre le Gaspillage - [www.contrelegaspillage.mc](http://www.contrelegaspillage.mc)
- Pierre FROLLA and the Centre de Sauvetage Aquatique et de Plongée de Monaco / Académie Monégasque de la Mer / École Bleue - <https://pierrefrolla.com> - [www.academiemonegasquedelamer.com](http://www.academiemonegasquedelamer.com)
- UNWTO International Network of Sustainable Tourism Observatories - [www.insto.unwto.org](http://www.insto.unwto.org)
- PELAGOS Sanctuary - [www.sanctuaire-pelagos.org/fr/](http://www.sanctuaire-pelagos.org/fr/)
- Société des Ports de Monaco - [www.ports-monaco.com](http://www.ports-monaco.com)
- Société Monégasque d'Assainissement - [www.sma.mc](http://www.sma.mc)
- Société Monégasque des Eaux - [www.smeaux.mc](http://www.smeaux.mc)
- Tourism for Sustainable Development Goals (SDGs) - [www.tourism4sdgs.org](http://www.tourism4sdgs.org)



モナコ政府観光会議局  
c/o Candlewick Co., Ltd.  
Parkside House 7F, Ichiban-cho-2  
Chiyoda-ku, Tokyo, 102-0082 JAPAN  
Tel. 03-6261-6005 - Fax. 03-6261-6051  
monaco@candlewick.co.jp

<http://www.visitmonaco.com/jp>